



LDAP ディレクトリの設定

LDAP ディレクトリの設定は、次の関連ウィンドウで行います。

- [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]
- [LDAP フィルタ (LDAP Filters)]

LDAP ディレクトリの情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- 「LDAP ディレクトリの設定値」 (P.15-1)
- 「LDAP ディレクトリの検索」 (P.15-6)
- 「LDAP ディレクトリの設定」 (P.15-7)
- 「LDAP ディレクトリの削除」 (P.15-8)
- 「関連項目」 (P.15-8)

LDAP ディレクトリの設定値

[LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] ウィンドウでは、たとえば LDAP ディレクトリの名前、LDAP ユーザが存在する場所、データを同期する頻度など、LDAP ディレクトリに関する情報を指定します。表 15-1 では、LDAP ディレクトリの設定値について説明します。関連する手順については、「関連項目」 (P.15-8) を参照してください。

始める前に

LDAP ディレクトリの同期化を行うには、その前に Cisco DirSync サービスをアクティブにしておく必要があります。サービスをアクティブにする方法については、『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』を参照してください。

LDAP ディレクトリの情報と LDAP 認証の設定値を変更できるのは、お客様の LDAP ディレクトリからの同期化が Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウで使用可能にされている場合だけです。

表 15-1 LDAP ディレクトリの設定値

フィールド	説明
[LDAP ディレクトリ情報(LDAP Directory Information)]	
[LDAP 設定名 (LDAP Configuration Name)]	LDAP ディレクトリの固有の名前を入力します (40 文字まで)。
[LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)]	LDAP マネージャのユーザ ID を入力します (128 文字まで)。このユーザは、該当する LDAP ディレクトリへのアクセス権を持つ管理ユーザです。
[LDAP パスワード (LDAP Password)]	LDAP マネージャのパスワードを入力します (128 文字まで)。
[パスワードの確認 (Confirm Password、半角英数字のみ)]	[LDAP パスワード (LDAP Password)] フィールドに入力したパスワードをもう一度入力します。
[LDAP ユーザ検索ベース (LDAP User Search Base)]	すべての LDAP ユーザが存在するロケーションを入力します (256 文字まで)。このロケーションは、コンテナまたはディレクトリとして機能します。この情報は、お客様側の構成によって異なります。
[LDAP カスタムフィルタ (LDAP Custom Filter)]	<p>このドロップダウンリストから LDAP カスタム フィルタを選択します。LDAP フィルタは、LDAP 検索の結果をフィルタリングします。フィルタに一致する LDAP ユーザは Cisco Unified Communications Manager データベースにインポートされますが、フィルタに一致しない LDAP ユーザはインポートされません。</p> <p>デフォルト値は、[<なし (None)>] です。この値は、LDAP サーバタイプに固有のデフォルトの LDAP フィルタを適用します。デフォルトの LDAP フィルタは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> [Microsoft Active Directory(AD)] : (&(objectclass=user)(!(objectclass=Computer))(!(UserAccountControl:1.2.840.113556.1.4.803:=2))) [iPlanet または Sun One LDAP サーバ (iPlanet or Sun One LDAP Server)] : (objectclass=inetOrgPerson) [OpenLDAP] : (objectclass=inetOrgPerson) [Microsoft Active Directory アプリケーションモード (ADAM)(Microsoft Active Directory Application Mode (ADAM))] : (&(objectclass=user)(!(objectclass=Computer))(!(msDS-UserAccountDisabled=TRUE))) <p>LDAP フィルタの詳細については、「LDAP カスタム フィルタ (P.17-1)」を参照してください。</p>
[LDAP ディレクトリ同期スケジュール(LDAP Directory Synchronization Schedule)]	
[同期を一回だけ実行 (Perform Sync Just Once)]	この LDAP ディレクトリに含まれているデータを Cisco Unified Communications Manager データベースのデータと 1 回だけ同期する場合は、このチェックボックスをオンにします。

表 15-1 LDAP ディレクトリの設定値 (続き)

フィールド	説明
[再同期の実行間隔 (Perform a Re-sync Every)]	<p>この LDAP ディレクトリに含まれているデータを Cisco Unified Communications Manager データベースのデータと定期的に同期する場合は、これらのフィールドを使用します。</p> <p>左側のフィールドには、数値を入力します。ドロップダウン リストボックスでは、次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [時 (hours)] • [日 (days)] • [週 (weeks)] • [月 (months)] <p>Cisco Unified Communications Manager では、6 時間 (このフィールドの最小値) ごとにディレクトリ情報を同期することができます。</p> <p>(注) このフィールドがアクティブのままになるのは、[同期を一回だけ実行 (Perform Sync Just Once)] チェックボックスをオフにした場合だけです。</p>
[次の再同期時刻 (Next Re-sync Time)] (YYYY-MM-DD hh:mm)	Cisco Unified Communications Manager ディレクトリのデータをこの LDAP ディレクトリと次回に同期する時刻を指定します。時刻は 24 時間制で指定してください。たとえば、午後 1 時は 13:00 です。
[同期対象のユーザフィールド (User Fields To Be Synchronized)]	
[Cisco Unified CM のユーザフィールド (Cisco Unified Communications Manager User Fields)]	[LDAP ユーザフィールド (LDAP User Fields)]
[ユーザ ID (User ID)]	[sAMAccountName] または [uid]
[ミドルネーム (Middle Name)]	(ドロップダウン リストボックス)
[マネージャ ID (Manager ID)]	[manager]

表 15-1 LDAP ディレクトリの設定値 (続き)

フィールド		説明
[電話番号 (Phone Number)]	(ドロップダウンリストボックス)	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。 LDAP ユーザ フィールドについては、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [telephoneNumber] • [ipPhone]
[名 (First Name)]	[givenName]	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[姓 (Last Name)]	[sn]	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[部署名 (Department)]	[department] または [department number]	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。
[メール ID (Mail ID)]	(ドロップダウンリストボックス)	これらのフィールドでは、左側のフィールドに指定した Cisco Unified Communications Manager データが、右側のフィールドに指定した LDAP ユーザ データと同期されます。 LDAP ユーザ フィールドについては、次のいずれかの値を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • [mail] • [sAMAccountName] • [uid]
[LDAP サーバ情報 (LDAP Server Information)]		
[サーバのホスト名または IP アドレス (Host Name or IP Address for Server)]		この LDAP ディレクトリのデータが配置されているサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。

表 15-1 LDAP ディレクトリの設定値 (続き)

フィールド	説明
[LDAP ポート (LDAP Port)]	<p>社内ディレクトリが LDAP 要求を受信するポートの番号を入力します。このフィールドにアクセスできるのは、エンドユーザの LDAP 認証が使用可能になっている場合だけです。</p> <p>Microsoft Active Directory および Netscape Directory のデフォルト LDAP ポートは 389 です。Secure Sockets Layer (SSL) のデフォルト LDAP ポートは 636 です。</p> <p>社内ディレクトリの設定方法によって、このフィールドに入力するポート番号が決まります。たとえば、[LDAP ポート (LDAP Port)] フィールドを設定する前に、LDAP サーバがグローバルカタログサーバとして機能するかどうかや、設定で LDAP over SSL が必要かどうかを決定します。次のポート番号のいずれかを入力することを考慮してください。</p> <p>LDAP サーバがグローバルカタログサーバでない場合の LDAP ポート</p> <ul style="list-style-type: none"> 389 : SSL が不要でない場合 (このポート番号は、[LDAP ポート (LDAP Port)] フィールドに表示されるデフォルトです)。 636 : SSL が必要な場合 (このポート番号を入力する場合は、[SSL を使用 (Use SSL)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください)。 <p>LDAP サーバがグローバルカタログサーバである場合の LDAP ポート</p> <ul style="list-style-type: none"> 3268 : SSL が不要でない場合。 3269 : SSL が必要な場合 (このポート番号を入力する場合は、[SSL を使用 (Use SSL)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください)。 <p>ヒント 設定では、上記の項目に記載されたオプションとは異なるポート番号の入力が必要になる場合があります。[LDAP ポート (LDAP Port)] フィールドを設定する前に、ディレクトリサーバの管理者に問い合わせて、入力する正しいポート番号を確認してください。</p>
[SSL を使用 (Use SSL)]	<p>セキュリティのために Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化を使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) LDAP over SSL が必要な場合は、社内ディレクトリの SSL 証明書を Cisco Unified Communications Manager にロードしておく必要があります。『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』の「Security」の章に、証明書のアップロード手順についての説明があります。</p>
[他の冗長 LDAP サーバを追加 (Add Another Redundant LDAP Server)]	<p>行を追加して、この他のサーバに関する情報を入力できるようにするには、このボタンをクリックします。</p>

Cisco Unified Communications Manager の管理に表示されるユーザ フィールドに加えて、表 15-2 で説明する [Microsoft Active Directory アプリケーションモード (Microsoft Active Directory Application Mode)] のユーザ フィールドも同期されます。

表 15-2 その他に同期される [Microsoft Active Directory アプリケーションモード (Microsoft Active Directory Application Mode)] のユーザ フィールド

[Cisco Unified CM のユーザフィールド (Cisco Unified Communications Manager User Fields)]	[LDAP ユーザフィールド (LDAP User Fields)]
[UniqueIdentifier]	[ObjectGUID]
[Pager]	[pager] または [pagertelephonenumber]
[Mobile]	[mobile] または [mobiletelephonenumber]
[Title]	[title]
[Homephone]	[homephone] または [hometelephonenumber]
[OCSPPrimaryUserAddress]	[msRTCSIP-primaryuseraddress]

LDAP ディレクトリの検索

LDAP ディレクトリの設定を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、LDAP ディレクトリの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、LDAP ディレクトリの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [LDAP] > [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] の順に選択します。
[LDAP ディレクトリの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Directories)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注)

検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.15-8) を参照してください。

LDAP ディレクトリの設定

Cisco Unified Communications Manager の管理のデータベースとのユーザ データ同期化に使用する LDAP ディレクトリの情報を追加または更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [システム (System)] > [LDAP] > [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] の順に選択します。

[LDAP ディレクトリの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Directories)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の作業のいずれかを実行します。

- LDAP ディレクトリに関する新しい情報を追加するには、対象となるディレクトリを見つけて (「LDAP ディレクトリの検索」(P.15-6) を参照)、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- LDAP ディレクトリに関する既存の情報を更新するには、対象となるディレクトリを見つけて (「LDAP ディレクトリの検索」(P.15-6) を参照)、「ステップ 3」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 15-1 を参照)。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

新しい LDAP ディレクトリが Cisco Unified Communications Manager データベースに追加されます。または、既存のディレクトリが更新されます。

追加情報

「関連項目」(P.15-8) を参照してください。

LDAP ディレクトリの削除

Cisco Unified Communications Manager の管理ページで LDAP ディレクトリを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

LDAP ディレクトリを削除すると、Cisco Unified Communications Manager はそのディレクトリに関する情報をデータベースから削除します。



(注)

該当する LDAP ディレクトリの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、[LDAP ディレクトリの検索と一覧表示 (Find and List LDAP Directories)] ウィンドウから複数の LDAP ディレクトリを削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、ウィンドウ内のすべての LDAP ディレクトリを削除できます。

手順

- ステップ 1 「LDAP ディレクトリの検索」 (P.15-6) の手順を使用して、削除する LDAP ディレクトリを検索します。
- ステップ 2 削除する LDAP ディレクトリの名前をクリックします。
選択した LDAP ディレクトリが表示されます。
- ステップ 3 [削除 (Delete)] をクリックします。
削除の確認を求めるメッセージが表示されます。
- ステップ 4 [OK] をクリックします。
ウィンドウの表示が更新され、LDAP ディレクトリがデータベースから削除されます。

追加情報

「関連項目」 (P.15-8) を参照してください。

関連項目

- 「LDAP ディレクトリを設定」 (P.15-1)
- 「LDAP ディレクトリの検索」 (P.15-6)
- 「LDAP ディレクトリを設定」 (P.15-7)
- 「LDAP ディレクトリの削除」 (P.15-8)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「ディレクトリの概要」
- 「LDAP システムの設定」 (P.14-1)
- 「LDAP 認証の設定」 (P.16-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「アプリケーション ユーザとエンド ユーザ」
- 「アプリケーション ユーザの設定」 (P.112-1)
- 「エンド ユーザの設定」 (P.113-1)